

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策No.331

記入日 平成25年 8月 6日

点検日 平成25年 8月 9日

施策名	都市農業の育成	施策担当マネージャー	市民生活部長	マネージャー氏名	山中 冬樹	内線	203
政策展開の基本方向	3 「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして		政策	3.3 活力ある産業を育成します			
関連計画・根拠法令等	①鎌ヶ谷市みどりあふれる都市農業創 造プラン ②鎌ヶ谷市農業振興対策事業補助 金交付基準 ③農地法 ④農業経営基盤強化促進法 ⑤農業委員会法						

1. 施策の目的・成果	(1) 施策の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。)						
	農業経営者						
	(2) 施策の意図(対象をどのような状態にするのか)						
農業従事者の高齢化や担い手不足により、農業経営は厳しい状況にあり、離農世帯も増加傾向にある。一方、都市農業として都市的な環境との調和・共存が図られ、市民に親しまれる農業展開を図ることにより、農業経営者の経営基盤の強化や、さらには市の魅力づくりに大きな役割が果たされる。							
(3) 施策の成果							
	指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績	目標値 (目標年度27年度)
施策	販売農家数	戸	362	362	334	334	330
	経営耕地面積	a	41,500	41,500	39,000	39,000	37,500
基本事業	認定農業者数	人	48	48	46	46	45
	新規就農者数	人	4	0	2	0	1
	特定農業団体数	団体	0	0	0	0	1
	耕作放棄地面積	ha	2.9	5.9	5.0	5.8	1.5
	なし剪定枝リサイクル率	%	13.6	9.0	4.4	3.4	15.0
	ブランド化認定数	件	6	6	6	6	7
	市民農園利用者数	人	165	162	162	151	171
	播農ボランティア数	人	20	30	35	41	45

2. コストの推移	コスト・指標	年度	単位	平成21年度 決算	平成22年度 決算	平成23年度 決算	平成24年度 決算見込み額	平成25年度 予算額	目標年度( 年度) 今後の計画総額
		(1) 総事業費 自動計算	千円	49,076	49,131	54,231	57,722	62,257	0
	①国庫支出金	千円							
		②県支出金	千円	348	276	1,219	1,200	1,165	
		③市債・その他財源	千円	2,109	2,489	2,088	1,969	2,042	
		④一般財源	千円	46,619	46,366	50,924	54,553	59,050	
	(2) 総所要時間(0.5単位) ①+②+③ 自動計算	時間 /年	3.752	6.720	3.897	3.897	0	0	
	①正職員(時間内)	時間 /年	3.652	6.582	3.797	3.797			
		②正職員(時間外)	時間 /年		38				
		③非常勤職員	時間 /年	100	100	100	100		

3. コスト説明	(1) 市民一人あたりコスト	円	53	(2) 全施策中の順位	この施策は、全42施策中	29	番目にコストをかけています。
----------	----------------	---	----	-------------	--------------	----	----------------

4. 環境分析	(1) 過去5年間で施策を取り巻く環境はどのように変わったか	都市化に伴う農地の減少や労働力不足による農業生産環境の悪化の進行と、県内外においてブランド化が進み、競争化が激しくなっている。	(2) 今後施策を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	今後も農地の減少や労働力不足による農業経営の厳しさは、続くものと思われる。また、農産物のブランド化のように、特色ある農業経営が必要になると思われる。
	(3) 施策について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見等)	各事業における補助など、農業振興施策の充実要望が出されている。	(4) 国・千葉県の方針並びに関係法規等の変化	農地法及び農業経営基盤強化促進法の一部改正(H21)

5. 施策を構成する事務事業の状況※施策中優先順位順に記載	優先度	事務事業名	担当課								
	A	農業振興対策事業に要する経費	農業振興課								
	B	鎌ヶ谷農産物ブランド育成に要する経費	農業振興課								
		農業振興資金融資等に要する経費	農業振興課								
		梨剪定枝堆肥化事業	農業振興課								
		援農ボランティア推進に要する経費	農業振興課								
		農業委員会事務局の運営に要する経費	農業委員会事務局								
		市民農園に要する経費	農業振興課								
	C	農業総務事務に要する経費	農業振興課								
		農業関係団体との協力事業に要する経費	農業振興課								
		農地事務に要する経費	農業振興課								
		手賀排水機場修繕事業	農業振興課								
		畜産振興に要する経費	農業振興課								
		農業関係者等との連携に要する経費	農業振興課								

①施策の中で優先度が高い事務事業から順に、A→B→Cの3区分で表示しています。

②優先度の判断は、「施策貢献度」「行政の果たす役割の大きさ」「投資効果」「市民ニーズ」「緊急性」の5つの尺度で相対的に判断した結果です。

6. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？市民等との役割分担は適切か？ 本市は全国有数の梨の産地であるとともに、野菜も多く栽培されているが、農業経営が厳しい状況にあるため、積極的に農業振興に関与する必要がある。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)施策の目的は政策にどのように結びついているか。 各事務事業を行うことにより、農業従事者の経営基盤がしっかりし、市の魅力づくりにも繋がる。
	(3)公平性	3: 高い	(理由)対象は偏っていないか？対象を広げたり狭めたりできないか？ 農業従事者全てを対象としており、公平性は保たれている。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この施策を廃止した場合支障があるか。同じ目的を持つ他の施策はあるか？さらに成果指標を伸ばせないか？ 国内でも有数な梨の産地であるとともに、多くの野菜栽培を行っている本市の農業振興を強力に推し進めるために必要である。
	(5)効率性	3: 高い	(理由)コストがかかりすぎているか？ どうしたらコスト、所要時間を縮減できるか？ かなり絞り込んだ状況で最低限の水準で支援をしており、効率性は高い。
	(6)総合評価	6: 精査・検証	(今後の方向内容) 農業従事者には厳しい状況が続くため、都市農業の振興を図る観点から継続して支援をしていく。

7. 改革・改善案	(1)改革・改善の方向	農業を担っていく後継者の育成が重要である。
	(2)改革・改善案の概要 ※指標改善の根拠とコストを示す	都市農業の強みやメリットを農業従事者自身に認識してもらい、魅力づくりをしてもらうことで、一人でも多くの後継者を育成していく。
	(3)改革・改善案の問題要因と克服策	生産地が大消費地に近接している地の利を活かすことや、名産の梨を守ること、鎌ヶ谷農産物のブランド化を一層進めることにより意識改革を図っていく。
	(4)改革・改善案導入の考え方 ※施策担当マネージャー所感	ゆるキャラを活用した農産物のPR活動を推進することによるブランド化、また、農業従事者へ講演会や研修会、各種セミナー等への参加を促すことにより、自己啓発に努めてもらう必要がある。

8. 成果とコストの方向性	成果の方向性	向上			
	維持		○		
	低下				
	コストの方向性	縮減	維持	増加	

成果とコストの方向性に関する説明

経費を維持したままで、最大限の成果を上げていきたい。

※評価検討(1)～(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない

※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 現状維持、7: 拡充

1 終了: 事業が完了したので、終了する      2 廃止: 事業を廃止する      3 休止: 再開を前提に休止する

4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する      5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する      6 精査・検証: 精査・検証の上、継続する

7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する